



令和5年6月11日[日] 開催

壊さないで!! “八代の至宝”八代市厚生会館 緊急シンポジウム

～語ろう! 市民の想いと
建築家による「まだまだ使える視点」～

レポート

八代市が4月27日に突然、「厚生会館の廃止条例を6月市議会に提案して、閉館とする(その後は解体することになる)」と発表したことを受け、当会は直ちに抗議文を提出するとともに、緊急シンポジウムを開催することにしました。

6月11日(日)、厚生会館本館の隣にある「お祭りでんでん館」で開催した緊急シンポジウムには市民ら約160人が駆けつけてくれました。市の判断根拠がゆらぐ指摘が相次いだほか、市民の熱い想いがほとばしる集いとなりました。

◎昨年末に当会発起人であり初代代表の森精一氏が急逝されたことを受け、今後は5名の共同代表で会を運営することおよび、7月30日にシンポジウム開催を決定し準備を進めていたが、廃止条例の提出発表を受け、この緊急シンポジウム開催を決定したことを説明。森前代表への追悼の黙とうをご来場の皆様と共にささげ、シンポジウムを開始。まずは、丸山共同代表より開催の目的について挨拶。次に八代市出身の映画監督、遠山昇司様より頂いたコメントを紹介。事務局の笠井光俊が経緯について説明しました。

* * * * *

□■□ シンポジウム前半 □■□

「厚生会館を語ろう 建築家の視点から」

日本建築家協会九州支部(JIA)熊本地域会のメンバーより、厚生会館の見学を元に次のような報告がありました。

●柴田氏：パラペットの多くのひび割れ、ベランダの防水の劣化は、一般的な劣化であり、その都度修復すればよく、構造には関係ない。奈落の下の漏水は排水すれば済む程度で、これも構造には関係ない。ホールは問題なく構造補強は済んでいる。座席の間隔は多少修復が必要だが、十分に使えるきれいなホールとの印象だった。

●松下氏：1階と2階のホワイエは全く異なる雰囲気がある。また、耐震補強は外からは殆どわからないが、中から見ると結構耐震補強されている。

●その後、以下のような質問と回答がありました。

Q.八代市が発表のホール再開に必要な20億円について、専門家の意見を伺いたい。

A.(建築家の古川氏より)「必要最小限で考えると、危ない箇所の修復費は2億円、でんでん館建設時に解体した機械室を再建するのに約5億円が必要と思われる。残りの13億円の内訳は、LEDやエレベーター、座席の取替や緞帳の自動化等、グレードアップに関するもの。」

Q.電灯のLED化については?

A.(古川氏より)「毎日一定時間使用するのであればLEDが効果的だが、月に数回しか使わないのであれば現行の白熱球で十分。わざわざ変える必要はない。」

Q.毎月どのくらいの維持費がかかるのか?

A.(当会より)「人件費等、年間7,000万円と聞いている。」

※政策会議では、市長は「4,000万円」と発言しており、4,000万～7,000万の幅があったと推察される。

●そして、次のようなご意見と質問・回答がありました。

「魔笛を鑑賞したことがあるが、いいホールだと思った。維持費の話が出たが、八代の文化水準、集客数を考えると、桜十字ホールで十分であり、大きなイベントは行われていない。本渡や水俣にも同規模のホールがあるが、定期的な演奏会が開かれている。そのような企画が八代(市民)から聞こえてこない。使う側の意識にも差があるのではないか。」

Q.ある市議会議員より、「厚生会館の価値はわかるが、価値があるからと言ってあれもこれも残していくは、八代市の財

政がいよいよダメになる。耐用年数が過ぎているからもうだめなのでは」と言われた。耐用年数とはどのようなことか。

A.(古川氏より)「耐用年数には、固定資産税の基礎になる【法的耐用年数】と、いわゆる寿命である【物理的耐用年数】の2つがある。木造住宅の法的耐用年数は22年だが、では22年で壊すのか。建築で100年経っているものはたくさんある。厚生会館の劣化度調査報告書の内容を確認したが、必要な最小限修復費用は2億円としている。客席は消防法に抵触しているため見直す必要があるが、椅子の間隔が1cm不足、奥の方で10cm不足しているだけなので、市は一脚30万円の椅子と交換ではなく、ボルトを緩めて少しづつ移動させればよく、数十万円で修復可能。配布した『11の疑問』のQ9が肝で、劣化度調査では、『直ちに大規模な改修が必要でない』としているのに対し、市長に報告した資料では、『大規模改修が必要』としている。2億円だったら市も(負担)できるのである。



Q.大規模改修が必要としているが、市議会ではどのような議論がなされたのか?

A.(来場された甲市議会議員より)「ホールが使えないとの情報に市民から、「なぜ使えない?」との質問を受け、議会にて質問した。その際、でんでん館が完成したら再開すると言われたが、その後また『使わない』との方針が出て再度質問したが、市側は『大規模改修が必要』と答えるのみで詳細な報告は届いていない。大規模改修が必要であれば、芦原事務所に見積もり等依頼すべきだが、違うところに依頼していることも質問はしている。八代市厚生会館は、山鹿市の八千代座のように文化財として残すべきと考えている。」

A.(来場された乙市議会議員より)「今回、市長は厚生会館を壊す方針を発表したが、市議会で決まったのは、『厚生会館のホールは再開しない』という一点のみ。」

Q.条例の廃止が決まつたらどうなるのか?

A.(来場された乙市議会議員より)「厚生会館という機能がなくなる。ただし、ホールを再開するために、別の形、例えばコンベンションセンターでもよいが、新たな条例を作ればよい。でんでん館が隣にあるので、いろいろな使い道があると思う。条例が可決されれば、『厚生会館』(という名称)はなくなるが、新たな使い道の可能性はあると考える。厚生会館については、市議会内でも議論が交わされたが、最終的には多数決で決まる。」

Q.厚生会館は建築としての重要性、特に音響が素晴らしい。この音響を再現するのにどのくらいの費用がかかるのか?宝という認識は持てないのか。対立ではなく、どのように利用すれば維持できるのか。例えば妙見祭とのコラボなど考えられないのか。

A.(JIAの吉永氏より)「水俣市文化会館は10年前に改修しているが、建て替えるなら35億円から50億円、鹿児島県阿久根市のホール建築には35億円かかっている。」



* * * * *

□■□ シンポジウム後半 □■□

●休憩をはさんで第2部では、冒頭に落成式の録音テープを聞いて頂きました。

録音テープは、八代市厚生会館を「後世に伝えるべき20世紀を代表する名建築」として選定した国際学術組織 DOCOMOMO JAPANが調査の過程で入手し、今回のシンポジウムに提供したものです。

当時の八代市長坂田道男氏、衆議院議員坂田道太氏、建築家芦原義信氏の挨拶が残されており、来場された皆様は真剣に聞き入りました。熊本高専森山先生より「1962年は八代港が重要港湾に指定されたことで産業道路が拡幅され、八代市が新産業都市になっていく時代。当時の八代市には重要な施策が二つあり、その一つが文化の殿堂八代市厚生会館を作ることだった。厚生会館は、新しい時代に向かっていく中でも、文化は重要であるとして位置付けられていると思う。厚生会館が産業道路に面して建っていることに意味があり、坂田道太氏が挨拶で述べた『未来に向かって』との言葉がこれにあたる。今の文化を未来に繋げていき、産業でも発展していくとの思いがある」との補足がありました。

また、当会の磯田共同代表より、「坂田市長がウイーンオペラ座でヨハンシュトラウスの演奏を聴いて、『ぜひ八代市民と共に八代でこの演奏を聴きたい。八代市にコンサートホールを建てたい』との思いが伝わるエピソードだ」との紹介もありました。



●厚生会館を利用された立場から、当会と来場者より以下の意見がありました。

(ピアノ講師の村井より)「毎年、開催されている市民文化祭では市内の合唱団約15団体が、厚生会館で市民合唱祭を開催していた。200名以上の団員と一般の方々が同じ空間で演奏を聴くことは、約900席の厚生会館だからできていたこと。互いに聴き合うことで学びにもなりレベルアップに繋がっていた。また、合唱祭だけでなく学校教育においても小・中・支援学校音楽祭が開催されていた。大変すばらしい教育の場だった。現在、八代市民から寄贈されたグランドピアノがホワイエに置かれたままとなっている。ぜひ、八代の未来のために残して頂きたい。ここで演奏を続けることが市民の民度に繋がることだと思う。」

(熊本バレエ研究所の甲斐田(当会共同代表)より)「かれこれ50年バレエを続けいろいろな劇場で踊ってきた。この厚生会館という劇場は、舞台と客席が一体となり温かい雰囲気のなかで踊ることができた。熊本市民会館、県立劇場にも舞台はあるが花道はない。新国立劇場でも踊ったことがあるが、厚生会館は広さこそ違うが遜色ない舞台。私の夢はもう一度、ここの舞台で講演すること。この夢を実現させたい。」



(『やつしろ子ども劇場』代表の丁畠より)「幼児期から思春期までの子ども達の心を育むことを大切に活動している。殆どの活動は厚生会館と共に歩んできた。創立51周年だが、厚生会館で200回公演している。音楽、歌舞伎、落語、マジック、人形劇、舞台劇、また海外からの公演等、多彩な作品を上演することができた。子ども劇場に足を運び舞台を観ることで、感情を共有して泣いたり笑ったり、観劇のマナーを身につけていく。大人になっても文化を楽しむ力が育まれたと信じている。文化は種を蒔き続けなければ育たない。長い時間をかけて文化を育ててきたのが厚生会館ではないか。文化は金食い虫ではなくその人の心の中に栄養となって育っていく。重厚な空間がある文化の殿堂、八代市厚生会館での文化体験は、これからも子ども達、八代市民を育していくものと信じている。」

(ひかり保育園澤園長より)「子ども250名、学童150名。いつも発表会を行ってきた。一人の子どもに4人の保護者が来る。だから1,000人に入る会場として、喜んで使わせて頂いてきた。遠くから来られたご家族も『本当に音響がいい』と喜ばれていた。ずっと続けてほしい。」



●来場者から頂いたアンケートの中で、「Q2.閉鎖された厚生会館の現状についてあなたの思いをお書きください」への回答を、一部紹介させて頂きました。

「別館を解体して、でんでん館を作られたとのことだが、再開するために費用がかかるることは解るが、自治体が行う文化事業に費用対効果を求める事はないと思う。」

「企業が行うのであれば利益を上げるのは当然だが、自治体が行う文化事業に利益を求める事はないと思う。松浜軒の塀の回収にクラウドファンディングで費用を募るとなつた。厚生会館もそのようは方法で資金を集めてはどうか。また、ネーミングライツもある。」

●このほかにも、多くの皆様より厚生会館への熱い想いを受け取ることができ、通信で数回に分けて掲載していきます。また、このアンケート結果は、6月28日に八代市へ提出しました。



●「最後にお一人ご意見を」と依頼し、挙手をされた方よりご意見をいただきました。

「少年少女合唱団に入団していたが、定期演奏会のリハーサルの日は一日中厚生会館にいたとの思い出がある。そんな私でも厚生会館が解体される、再開に20億円かかると聞いて、いくら大切な文化財でも20億円かけて維持していくのは、難しいのではないかという気持ちに傾いていた。そんな時、たまたまこちらのシンポジウムの日程を知ったので話を聞いてみようとここに来た。

実際に20億円の中身がどういうものなのか、20億円というのは最大20億円であり、削ることができるということが良く解った。新八代駅周辺に新しい施設を作るから、厚生会館はお払い箱だということにもおかしいなと思ったが、私の周りには20億円というオフィシャルな数字がとても大きく、いくら歴史的建造物で残さなければならないと頭では解っていても、私達が負担して残さなければならぬのかとの話も聞く。文化にお金をかけられないというのも解るが、それを飲み込むにはあまりにも金額が大きく、20億円あれば子育て中の手厚い支援をして頂けるとも考える。この20億円の中身をもっと発信して頂きたい。

そして、(新駅周辺の)用地買収費用、厚生会館の解体費用、新駅周辺に新たなホールを建てるにはいくらかかるのか、そのような絵に描いた餅のような話の中で、厚生会館を潰していいのかということを感じた。

6月議会で厚生会館がなくなるという話を先程されていたが、今までの話を聞く限りではまるで解体ありきで流れできているなと思うので、その条例が決まることが解体への第一歩かと危機感を覚えた。

文化財として大事、これまでの思い出として大事ということで立ち上がるべきだが、それだけではなくて、いかに金銭が大きな数字か、本当はこれだけで済むが、さらに新たな施設を作るというなら何倍もかかるということを市民に知らせて、解体に傾いている市議の方に、まだまだ残せる施設を何十倍というお金をかけて新しくするために賛成してしまった議員になってしまふと伝えて、考え直して頂ければと思った。文化も大事だが、市民としてはお金も気になることを伝えたかった」

というご意見を頂きました。

この発言を受けて、建築家の西山氏より「中心市街地の財産、経済的な意味も含めて考えると残す方が得ではないか」と提言がありました。また、当会の笠井麻衣からも、ランニングコストの質問に対する回答と運営する人材の発掘についての説明がありました。



会議室には参加者全員が入りきれず、伝承ルームにて会場の様子を映像配信しました。



閉会の挨拶をする甲斐田共同代表

●甲斐田共同代表より、本日学んだことを周りの方たちへ発信者として伝えていただくようお願いして、閉会の挨拶としました。

◆遠山昇司氏からのメッセージ

私は、これまでに八代出身の映画監督として八代の風景を見つめ記録しながら物語を紡いできました。一方で、アートディレクターとして津奈木町にある日本で唯一の海に浮かぶ旧赤崎小学校を舞台に『赤崎水曜日郵便局』という架空の郵便局を立ち上げました。

もうひとつ、2018年からは、国内有数の国際芸術祭である『さいたま国際芸術祭2020』の芸術監督を務め、取り壊しが決まっていた旧大宮区役所と閉館が決まった旧大宮図書館を会場に展開しました。

前者の『赤崎水曜日郵便局』は、全国で話題となり、旧赤崎小学校は現在、立入禁止となっていますが今もなお津奈木町民の誇りとして佇んでいます。

後者の旧大宮区役所においては、役目を終えた建物に対して市民が参加しながら自らの記憶を確かめ未来へと継承できる様々なプロジェクトを展開しました。また、旧大宮図書館は民間事業者の手でリノベーションされ、スタートアップ向けの小規模事業や観光案内拠点も入る新たな複合施設に生まれ変わっています。

取り壊さずに新たな活用法を見出し存続していく、または取り壊す場合でも空間と体験をしっかりと記憶にとどめ未来へと継承されていく、そんなことを大切にしながら私はこれらの場所と付き合ってきました。

今回の八代市厚生会館の場合は、どうでしょうか。八代で生まれ育った私にとっても、八代市厚生会館は地域の歴史、そして営みを物語る建物であることは間違いないありません。

そして、八代市厚生会館だけでなく、現在、日本各地で歴史的・文化的な価値をもつ建物が次々と取り壊さ

れています。この10年間で、解体などにより姿を消した「登録有形文化財」は、189件というデータも出ています。

維持・管理や防災対策に対する多額の負担、そして八代市厚生会館の場合は加えて興行面での採算性が課題として挙げられています。私は、建築や防災の専門家ではないので、その点に関しては意見を申し上げられませんが、興行面に関しては、現在の規模感だからできる企画内容の検討と、八代独自のオリジナリティを打ち出せねば立て直すことは可能です。また、文化活動を数値化する視点だけではなく、市民の文化活動によって生まれる豊かさは地域の誇りと活性化、そして彩りある生活につながり、長期的な眼差しが必要です。

私が今回の八代市厚生会館の件で残念に思うのは、これまでの経緯を見るに、市と市民の間に分断が生まれてしまっていることです。本来、公共空間や劇場は分断の場ではなく、文化や人生の豊かさを共有する「調和と共存の場」です。

そして、分断と同時にもうひとつ生まれたのは、「気づき」です。

この八代市厚生会館への「気づき」は、これから八代の文化において重要なことだと思います。一度、更地や駐車場になってしまった場所にかつて何があったのか、いつの間にか私達は思い出せなくなります。八代厚生会館で一度も過ごしたことがない子どもたちのためにも、「閉じた」状態で未来に向かうのではなく、「開かれた」状態で未来へ向かうことを望みます。



遠山昇司 Shoji Toyama

映画監督／プロデューサー
水曜日郵便局 局長／
さいたま国際芸術祭2020 ディレクター

1984年熊本県八代市生まれ
法政大学国際文化学部卒業
ボストン大学留学
早稲田大学大学院国際情報通信研究科修士課程修了

現在、6年ぶりの長編映画最新作、『あの子の夢を水に流して』が公開中。
「喪失と再生」の物語を描き続けてきた遠山氏が令和2年7月豪雨を受け、
球磨川流域を舞台に「生命の物語」を紡いでいる。

◆アンケート 集計結果

緊急シンポジウムの参加者にはアンケートへのご協力をお願いしました。

質問項目は、「Q1. 八代市厚生会館について、あなたの思い出を教えてください」、「Q2. 閉鎖が発表された厚生会館の現状について、あなたの思いをお書きください」、「Q3. 当会では、これまで厚生会館で公演されたものの写真を集めています。(今後、思い出パネル展、冊子を制作予定)もし、お持ちの方がおられましたらお知らせください」の3つです(他に名前、年齢、居住地の記入欄と、お名前を公表してもよいかどうかを確認する質問あり)。

約160名の参加者のうち、何と100名が「Q1」～「Q3」のいずれかで回答を寄せてくださいました。今回、中でも「Q2(厚生会館の現状に対する思い)」の全回答、93名分を数回に分けて掲載していきます。なお、「再開を求める会」事務局で回答を分類し、小見出しをつけました。年齢・居住地に関して、「市内」とあるものは「八代市内」、「——」とあるものは「未記入」を意味します。

Q2. 閉鎖が発表された厚生会館の現状について、あなたの思いをお書きください。

【厚生会館の価値、位置づけ、存在意義に関連して】

◆戦後、環境を取り入れた最初の建築物。八代にとって残すべき。これから観光資源であり、教育の場として、ものを大切にすることを子ども達に教えるためにも残すべき。(70代、市内)

◆たいへん残念でした。八代市の象徴のようなたたずまいのホールがなくなるのは、受け入れるのが難しいです。存続を願います。(50代、市内)

◆厚生会館は、八代宮を中心に八代の歴史・文化の中心であり、八代の文化の軸足をしっかりと発展させてほしい。現状では、文化的要素が分散されているように思える。(70代、市内)

◆厚生会館は八代市のシンボルです。(——、市内)

◆厚生会館の入り口、ここは今、八代の文化の顔とも言うべき玄関口です。そこに雑然とベンチ、自動販売機、そうじ道具などが置かれ、とてもみっともなく、八代市の厚生会館の扱いのひどさが目に見えるようです。厚生会館はデザイン、建物の細部に至るまで重厚で、すばらしく、今どれだけの建設費をつぎ込んでもこれだけのものはできません。この個性を生かす人材を公募し、この宝を大切にしていくことは、八代の文化に対する姿勢を内外に示すことになります。アンティークで格好良い厚生会館を、八代の未来の子どもに残してください。(——、市内)

◆これからも音楽、劇、その他いろいろのことを利用できるよう会館を残してほしいです。(80代、市内)

◆市が能楽堂を手放して40年経とうとしています。今回は八代市民の文化的発信源ともいえる建築物まで解体する方向性に危機感を覚えます。未来の子どもたちに八代の文化的、歴史的価値を伝えていくために、我々大人が教育面からもアプローチして取り組んでいくべき問題だと考えています。(40代、市内)

◆解体しないでほしい、絶対に。これまでに利用してきた古いものを大切に残し、活用していくほしい。そんな八代市であってほしい。そんな八代市にしたい。松井神社前の道路から、八代宮、でんでん館と並んで、どっしりとした厚生会館のたたずまいを見て、「ああ、これはしっかり残していくかなければ」と改めて思いました。(70代、市内)

◆市民合唱祭に長年参加してきて、ステージで歌ってきた私としては、まさか閉鎖になるとは思いもしませんでした。建物は古くなったかもしれません、重量感のある、そして音響も良くて、観客もたくさん入ることができて、とても良いホールだと思います。この貴重なホールを残してほしいです。市長を始め、その関係者の方々に厚生会館の良さを知ってほしいです。壊さないで、と願います。(60代、市内)

◆多くの皆さま(音楽関係者含む)が口をそろえておっしゃる「ほこれる音響」をぜひ実現してほしいし、この本物の音を未来に届けるのは、すばらしい八代人の責務だと思います。(50代、市内)

◆ハーモニーホールに集中しているので、予約がとれない。子ども達の健やかな心づくりのためにも、文化活動は大切。市民の身近な会館として残してほしい。コミュニケーション力をはぐくむためにも、自己表現の場が必要。(40代、市内)

◆文化的な建物を後世に残していく。それらしいの余裕を八代市も持っていたいただきたい。(60代、市内)

◆細川さんのアートポリスの建物より遺す価値のある建物だと思っています。予算さえ確保できればいいですね。(60代、市内)

◆再開させるべき。100年後、200年後、八代の宝になると確信している。(70代、市内)

◆多くの思い出が消え去るような気がする。(——、市内)

◆とても悲しいです。楽しい思い出がなくなってしまうようです。(60代、市内)

◆このように広いりっぱなホールがなくなることは、八代の文化を大切にすることができなくなるのでは?と、心配です。ぜひ、何とかして残していくなら、と願っています。(60代、市内)

◆八代城跡、厚生会館、裁判所、博物館、松井神社、松浜軒の並びは八代の唯一の景色あります。討論の中で、市議会の多数決のギモンを感じた。(——、市内)

◆この時代の建物はとても重要。近代のホールの先駆け。ぜひ残してほしい。(60代、八代市外)

◆文化的に価値のあるものを壊してしまえば、何もなくなってしまう。八代市役所の方々には、八代市厚生会館の価値を今一度、考えてほしい。なくしたくない。子ども達(中学生時代)の思い出を壊したくない。(60代、市内)

◆6月28日、八代市へ要望書を提出

令和5年6月11日に開催しました緊急シンポジウムを受けて、八代市に下記の要望書を提出しました。提出時には、緊急シンポジウムで発表された八代市厚生会館の落成式の音源の中の坂田道男市長の式辞、坂田道太氏の祝辞、芦原義信氏の謝辞の書き起こし原稿と音源を録音したCD、併せて来場者の皆様からアンケートとして寄せられた声を全文提出致しました。当会からは、丸山久美子共同代表、磯田節子共同代表、坂川昌生さんが同席しました。



八代市厚生会館の今後について、結論を急がず、改めて市民とともに考えるよう求める要望書

八代市は4月下旬、八代市厚生会館の閉館及びその後は解体という方針を発表されました。その後、市のホームページや「広報やつしろ」6月号において「厚生会館の今後の方向性」について広報がされています。

それらで示されている八代市厚生会館の高い価値や重要性については、当会がこれまで要望書や提言書などで「先人たちから継承してきたもの」として繰り返し訴えてきたものもあり、八代市側がようやくそれらをしっかりと整理して表明してくださったと、改めて認識しているところです。

本来、こうした認識を市民と共有し、土台としたうえで、「市民の財産」「街にとっての存在意義」など八代市厚生会館の今後をじっくり議論すべきだと考えます。しかしながら、それがないまま「閉館」「解体」の発表がされ、約2カ月が経ちます。

その発表を受けて当会は6月11日、緊急シンポジウムを開催し、市民ら約160人の参加がありました。厚生会館の内外部を実際に視察した建築の専門家から、約20億円とされる改修費について「再開に必要なのは約7億円で、残りは『この際だから実施しよう』というグレードアップ費用」、法定耐用年数60年を超えるとされることについて「実際の物理的な耐用年数はまだ数十年あり、十分に使い続けることが可能」などの指摘があり、市の劣化度調査では、実は「大規模改修は必要ない」とされていることも明らかになりました。また、ホールとしての採算性向上の可能性、「厚生会館の機能移転」なる問題などについても、市民目線での意見が次々と出ました。「閉館」「解体」について多くの市民が依然として強い疑問を持っているだけでなく、建築の専門家らの指摘によって市の判断の根拠が揺らいでいる中、厚生会館の今後について、やはり改めて立ち止まって考えるべきではないでしょうか。

シンポジウム会場で配布したアンケートには「閉鎖が発表された厚生会館の現状について、あなたの思いをお書きください」という質問項目があり、この項目だけでも約90人が回答を寄せてくださり、「八代の未来の子どもに残してください」といった思いが数多く綴られています。この質問項目の全回答を添付しますので、ぜひとも市民の思いをくみ取っていただければ、と思います。

そのうえで、以下の2点を要望いたします。

1. 八代市厚生会館の今後について、結論を急がずに時間をかけて検討すること
2. 市民とともに八代市厚生会館の今後を考える場を作ること

なお、八代市が今年1月に発表したJR新八代駅周辺再開発構想にある「文化コンベンションセンター（仮称）」について、一部で当会の考えについて誤解されている可能性を感じますので、付言させていただきます。

現時点において、「厚生会館の機能を移転する」とされる「文化コンベンションセンター（仮称）」についてはまだ具体像が公表されておらず、この複合施設建設の是非について判断するのは困難です。当会としても、具体像があきらかになり、この施設を建設することが市民の「創造力向上」や「市全体の経済的な発展」に繋がり、次世代の負担にならないことを市民が納得できる施設であるならば、その整備に反対する理由はありません。

当会は、あくまでも「今の中心市街地にある厚生会館を残してほしい。ホールとして使わせてほしい」ということを求めているものです。

◆八代市議会の動き

八代市は、7月3日に始まった6月定例市議会に「八代市厚生会館条例の廃止」案を提案しました。この議案はまず、7月19日の経済企業委員会で審議された後、6月定例市議会最終日(7月25日)の本会議で、出席している全議員による採決が行われます。現状では、市議会で過半数を占める自民党と公明党の議員らが条例廃止案に賛成する方針のため、可決される公算が高いです。

なお、そもそも「八代市厚生会館条例」は、第1条で「八代市は、市民の文化向上及び福祉の増進を図るために、厚生会館を設置する」と謳い、この建物の名称を「八代市厚生会館」とすることや、位置(所在地)を「西松江城町1番47号」とする

ことなどを法的に定めています。この法的な根拠によって、貸し付けや売り払い、譲与などが原則禁止される「公共用財産」という位置づけになっています。

しかし、今回の「条例廃止」によって、こうした法的な根拠が失われることになり、「公共用財産」から、貸し付けや売り払い、譲与などが可能な「普通財産」という扱いに変更されます。いつでも解体できる状態になるわけです。ただ、まだお気づきでない方もいるかもしれません、解体するためにも多額のお金がかかります。5億円前後ではないかと思われます。そのお金があるならば、改修費のかなりの部分に充てることができると思うのですが……。

◆「八代市厚生会館のホール再開を求める会」の会議に参加しませんか?

毎月約2回、八代市厚生会館の今後について、県内外の建築家をはじめとした専門家の皆様と市民を交えた会議を開催しています。「八代市厚生会館をなんとか残したい!」「活用を続けたい!」という熱い想いを持った方々が当会に参加し、活動をしています。ぜひ、あなたも参加してみませんか?



会議の会場は、珈琲店ミック、萩原会館、正教寺などを借りて開催しています。まちづくりや歴史文化の学びに満ちた会議です。

正教寺での会議の様子



正教寺の住職だった僧文曉(正教寺10世)。小林一茶は僧文曉を訪ねて八代城下の正教寺に3ヶ月逗留。正教寺は厚生会館の並びから「徳淵の津」の間にあり、真宗仏光寺派の古刹です。

◆「八代市厚生会館のホール再開を求める会」の支援金口座を開設しました。

当会の活動費(印刷物作成費用、イベント開催運営費用他)はすべて実費として発生するものに充てられます。
皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

支援金振込先

熊本銀行 八代支店(店番 201)

口座番号: 普通 3161934

名義: 八代市厚生会館のホール再開を求める会

● 事務局より

八代宮(将軍さん)の神橋を渡り切ったところに玉垣がありますが、その左角に「松井家」、右角に「坂田道男」と、他よりひと回り大きな玉垣が奉納されています。八代の文化に貢献があった両家ですが、このことを一度に観ることができるのが、松濱軒と八代市厚生会館の一画です。そのひとつがいま、解体の危機にあります。

6月11日に行われた緊急シンポジウムでも、参加者から「八代の宝」「文化の殿堂」という発言がありました。利用可能であれば、最低限の費用で維持管理していただきたいのはもちろんですが、時を経たものにしかない価値を再度考え直してもらいたいです。(坂川)



LINE公式アカウントができました!



当会より活動の進捗等の情報を発信します。ぜひご登録ください。

『八代市厚生会館のホール再開を求める会』通信
vol.03

2023年7月22日発行

八代市厚生会館のホール再開を求める会
お問合せ / 080-2747-1838
hallsaikai@gmail.com